

回転断層方式パノラマの5大特徴

※個人的にまとめたものです

• 第1の特徴

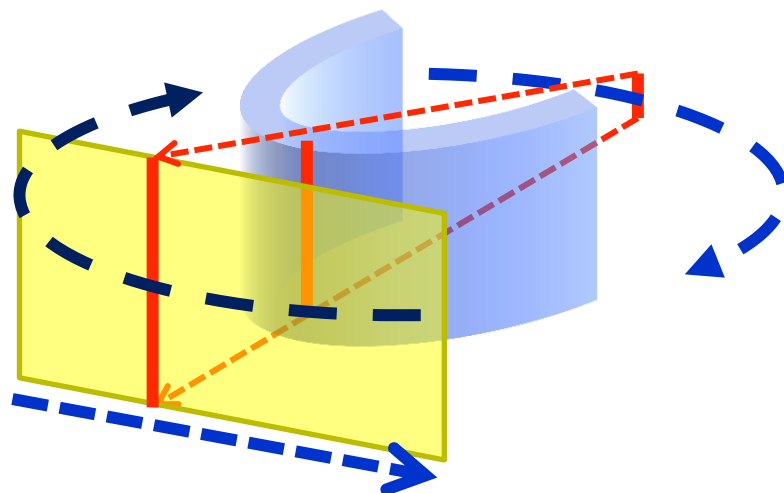
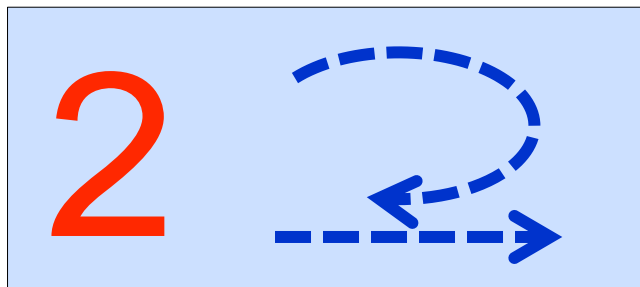
- 「1」の字状（縦長、回転面に垂直）のスリットにてスキャンされる。



※CTは回転面に平行なスリット

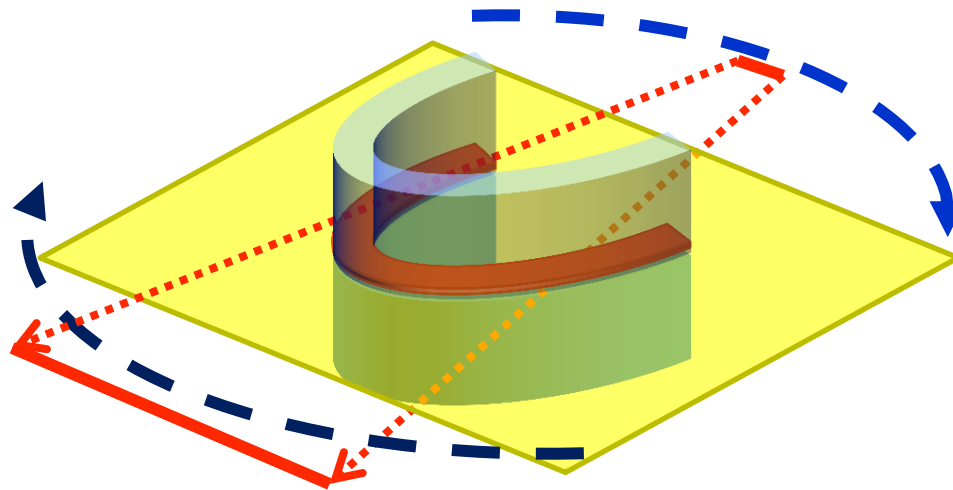
• 第2の特徴

- 回転（管球・フィルム）& 移動（フィルム）で撮影される。



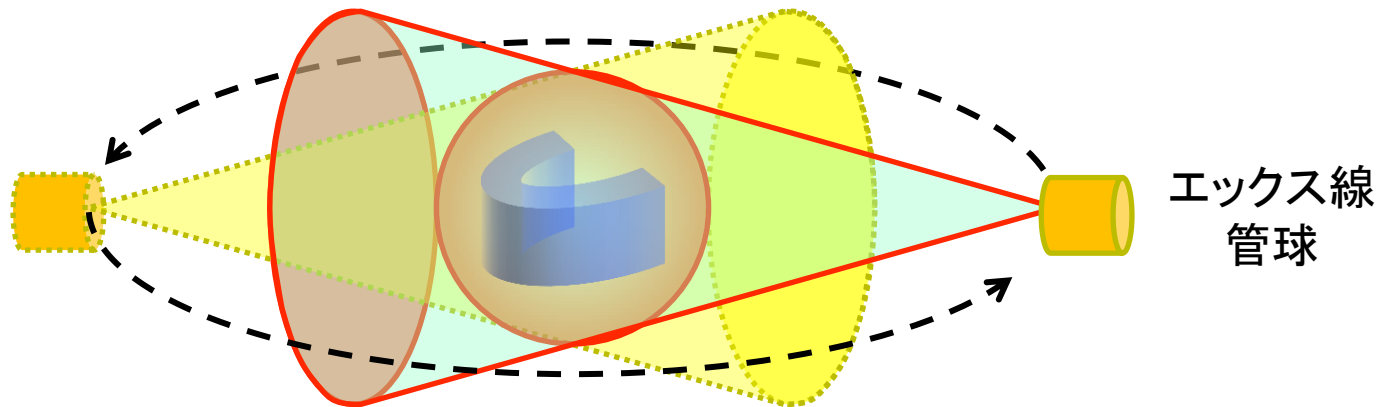
補遺・CTの場合

- CT(基本的な1スライス/1回転)
 - 照射野: 回転面に平行なコリメーター、セパレーター(スリットのようなもの)
 - 得られる断層: 回転面に平行な断面



補遺・CBCTの場合

- CBCTでは検出器が円。
- コーン(円錐)が回転するので、重なる部分、すなわち球の領域を画像化することができる。



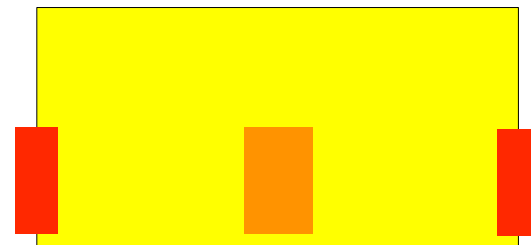
※検出器の面が方形(四角)であれば、円柱になる。この場合、X線束は四角錐でコーン(円錐)ではないが、コーンビームと呼ばれている。

回転断層方式パノ라마の5大特徴

※個人的にまとめたものです

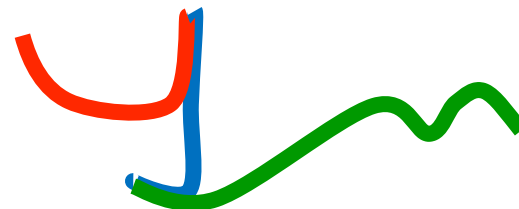
• 第3の特徴

- 頸椎は**3か所**に映る。
- 中央の頸椎は断層軌道から大きく外れボケるため、障害陰影となる。



• 第4の特徴

- 眼窩【**U**】・パノ라마無名線(上顎骨頬骨突起後縁)【**J**】・頬骨弓下縁【**arch**】は繋がっている。
- **UJ-arch**の一筆書き。
※実際にはUJの連続は下眼窩裂で分断されている。

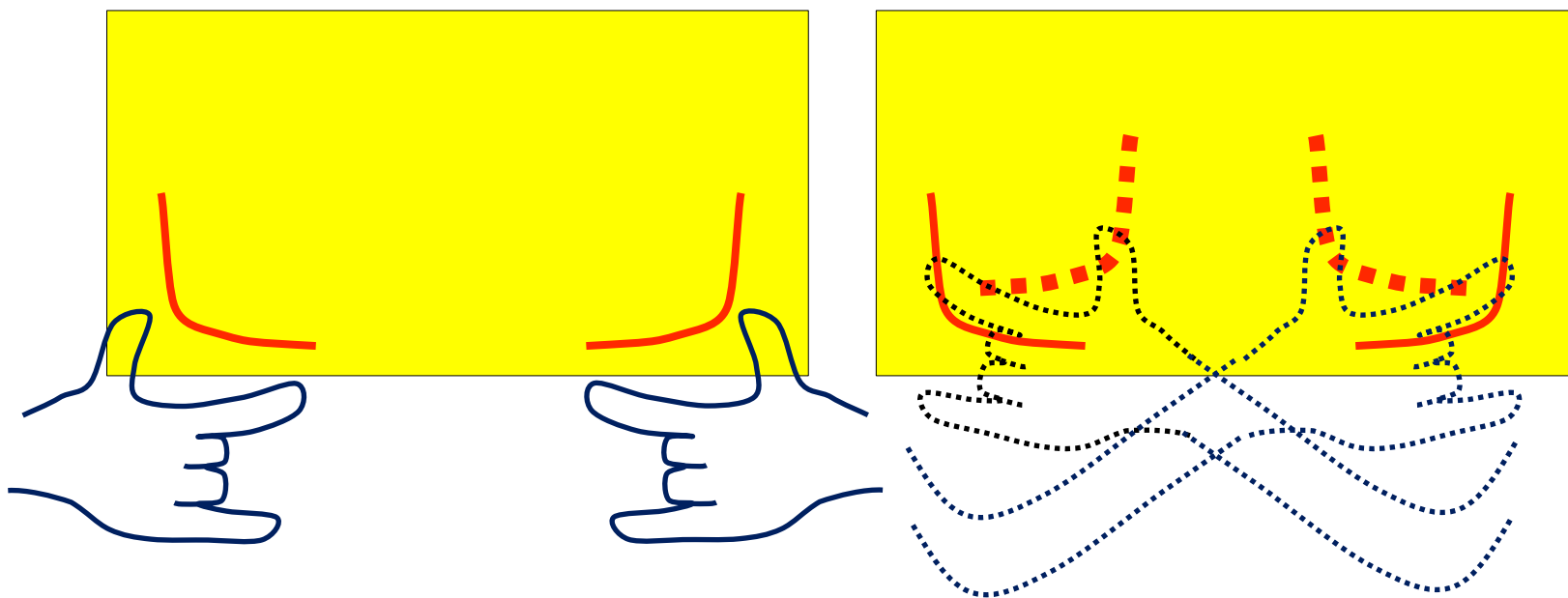


4に見えなくもない？

回転断層方式パノラマの5大特徴

※個人的にまとめたものです

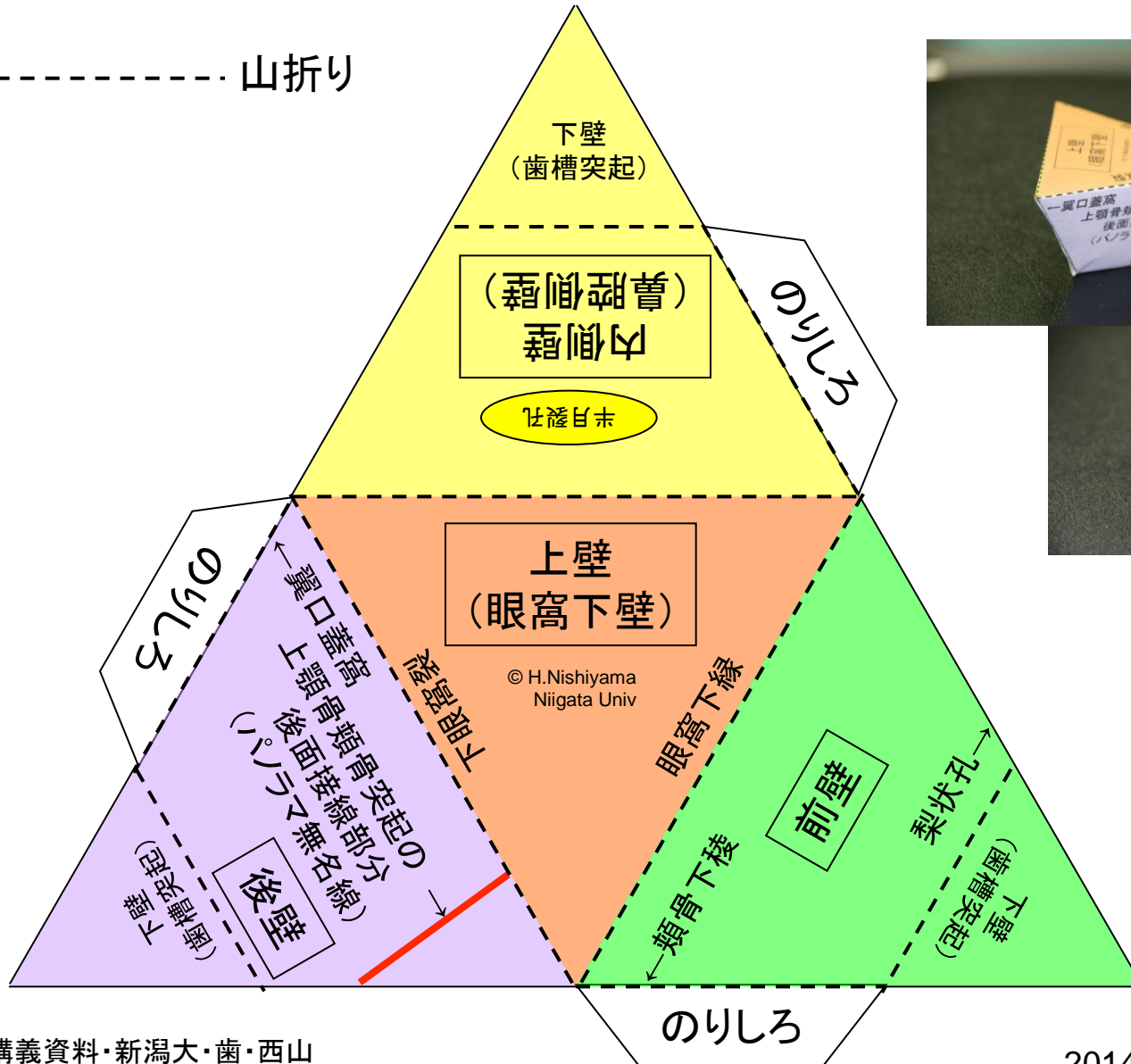
- 第5の特徴（**DAIGO**の「ういっしゅ」）
 - 下顎角はクロスして上がり※、障害陰影となる。



※「上がる」のは、エックス線が、やや下方からすくい上げるように入射されるため。

補遺・上顎洞を理解する 変形三角錐・工作教室(ミニペン立兼用)

----- 山折り



少し不安定
です(˘;)

